

パブリック・サービス研究分科会 2009年4月定例会 「主題書誌作成と蔵書評価」	
日時	2009年4月20日(月)
場所	成城大学図書館
記録	瀬戸山(学習院大学)
参加者	伊東(女子栄養大学)、椎名(明治学院大学)、清水(和光大学)、瀬戸山

1. 主題書誌作成手順について

前回の定例会時に決定した主題書誌作成手順に変更が加えられた。1人1分野5冊分の主題書誌を作成するのではなく、全員で1分野(経営学—組織論)5冊分の主題書誌を作成することとした。変更後の作成手順は下記の通り。

1. 主題書誌作成手順

0) 何らかの基準で自分の選択した主題の範囲を決める

- ・経済学ならば、古典派に限定する
- ・哲学ならば、ギリシャ哲学に限定する 等々

1) 決めた範囲に応じて、WebcatPlusでタイトル検索を行う。タイトルを見て明らかに専門的でない、全般的でない図書を除き、一つ一つの資料の所蔵館数を調査する。所蔵館数の多い順に上位5位を「基本資料」とする

- ・所蔵しているということは、その大学において有益であると考えられて購入されているので、所蔵館数が多いということは、その資料に一定の価値があると考えられる

2) 1)でリストアップされた基本資料中の引用文献をリスト化

- ・分野は「経営学—組織論」とし、基本資料をグループ全員で分担してリスト化
- ・加藤先生が学生の頃同様の調査をしたときは、1800件程度(参考)

3) 2)のリストを引用回数によりソートし、レベル分け

4) 上記の書誌を使用して大学間(どの大学を選択するかは未定)で比較評価を行う

- ・例えば、総合大学と単科大学を比較し、
単科大学の蔵書が優れているということがいえれば、面白い

2. 研究スケジュールについて

前回の定例会時に決定した下記スケジュールにもとづき、6月定例会までに各自が分担する資料についてリスト化することが確認された。

4月末迄：少なくとも1冊の引用文献をリスト化

6月定例会：評価作業開始

7月定例会：評価結果分析

8月合宿：研究終了、執筆開始

9月定例会：執筆上の質問、執筆継続

10月定例会：執筆終了、発表準備

11月定例会：発表リハーサル、発表資料修正

12月定例会：最終リハーサル、微調整

12月？日：最終発表

3. その他

1冊分の参考文献をリスト化した所感として、下記のことが報告された。

- ・ 参考文献で示されている資料の情報は、誤っていることがある。
- ・ 雑誌については、**WebcatPlus** だけでは同定できないものもある。その場合は、**Google Scholar** を使用して同定した。
- ・ 特定雑誌の出現回数が多かった。1冊リスト化しただけでも、網羅的ではないが、当該分野の主要な雑誌をピックアップすることは可能だと感じた。
- ・ 主題知識の増加というよりは、書誌同定の技術が向上したと感じた。主題知識の増加のためには、解題を追加するなど資料の内容に触れる作業が必要だと感じた。

以上